

# 浜通り平坦地域における水稲育苗ハウスを利用した ストック秋冬出し作型（南相馬市）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 水田転換畑におけるストック栽培の実証(南相馬市)

担当者 佐藤優平、根本知明

## I 新技術の解説

### 1 要旨

浜通り地域では、花きなどの園芸品目の栽培が注目されるとともに、水稲育苗ハウスの育苗後の有効活用が求められている。そこで、水稲育苗ハウスを用いたストック秋冬出し作型の実証を行った。水稲収穫前の9月上旬に、水稲育苗ハウスでストックを定植すると、水稲作業との競合が少なく、11月に高品質なストックを出荷できる。

- (1) 水稲育苗ハウスにおいて、ストック（極早生）を水稲収穫前の8月17日に播種し、9月10日に定植すると、11月中旬に開花盛期となり、水稲作業との競合が少なく、収穫できる（図1、表1）。
- (2) 収穫されたストックは、切り花長、花穂長ともに大きく、上位規格の割合が82.5%を占め、品質が優れた。（表1、図2）。
- (3) 実証したストック栽培では、10aあたり約64万円の所得が見込まれる（表2）。

### 2 期待される効果

- (1) 水稲育苗ハウスにおいて、水稲育苗後に花き栽培を導入する際に参考になる。

### 3 活用上の留意点

- (1) 本試験は、南相馬市小高区の水稲育苗ハウス（間口6.3m）で実証した。
- (2) 品種は極早生オールダブル一本立ち品種の「ドルセホワイト」を使用した。
- (3) ストックの育苗の際には、高温を避けるため30%遮光の寒冷紗をハウスに設置した。
- (4) ハウス周りに十分な深さの明渠を設けるなど排水対策を実施した。

